

新たな県立博物館の 整備場所候補地について

令和8年7月30日
青森県

I. 新たな県立博物館の整備場所候補地

新たな県立博物館の整備場所候補地

しもしろがねちょう
弘前市下白銀町
おうてもんひろば
追手門広場

I. 新たな県立博物館の整備場所候補地



I. 新たな県立博物館の整備場所候補地

○追手門広場空き地部分
2,600㎡程度

追手門広場

弘前駅
方面

II. 選定理由

検討会議報告書の整備場所候補地の基本的な考え方

- ①洪水、土砂災害、津波等の災害リスクが低い ➤
 - ・ 防災マップの浸水・土砂災害に該当するエリアではない
- ②県民が日常的に行きやすい ➤
 - ・ 弘前市は津軽圏域 35 万人の中心都市
 - ・ 鉄道や高速道路 I C があり他圏域からも行きやすい
 - ・ 県民が愛着を持つ弘前公園に隣接
- ③県外からの観光客が訪れやすい ➤
 - ・ 近隣に弘前公園を中心とした観光施設が集中
 - ・ 周辺観光施設の延べ入込客数が 200 万人を超える
県内トップクラスの観光地

3つの項目全てを満たしている

II. 選定理由

更に…

- ◆弘前市は藩政時代から弘前藩の城下町として発展し、弘前城、桜、りんごなどで知られている県内有数の自然・歴史・文化が豊かな都市
- ◆博物館の調査研究において、弘前市や近隣の国立大学等との連携が期待できる
- ◆弘前公園・追手門広場は県内でも屈指の『**人が集まるエリア**』であり、多数の県民・観光客の来館が期待できる

II. 選定理由

以上のことを総合的に勘案し、

弘前市下白銀町の追手門広場が

新たな県立博物館の整備場所候補地として最もふさわしい場所と判断

追手門広場の再編について

上記について弘前市に相談したところ、

追手門広場内の市施設の再編を検討している話があった

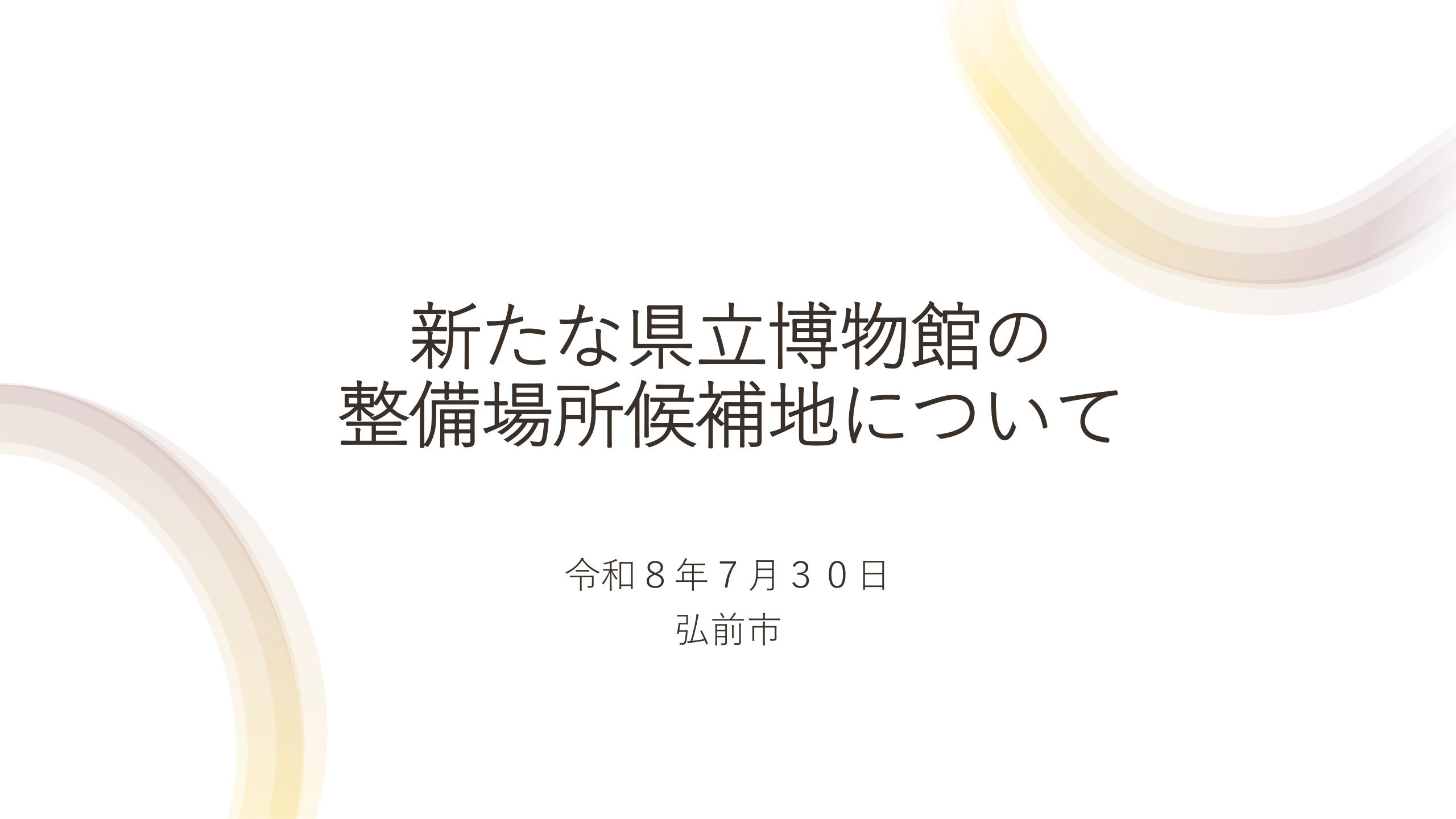
▶ 市の施設整備を一体的に行い、相互に連携することで

- ・ 新たな街づくり拠点の形成
 - ・ 相乗効果でのにぎわい創出
- } に期待

III. 新たな県立博物館の整備への期待

- ◆新たな県立博物館は**すべての県民のための施設**
県民の皆様に**新たな県立博物館がもたらす効果・利益が
最大値となる場所を選定することができた**
- ◆追手門広場と新たな県立博物館が**青森県の文化・観光の
拠点として新たなにぎわいを創出**

▶青森県を全国に発信する拠点へ



新たな県立博物館の 整備場所候補地について

令和8年7月30日

弘前市

追手門広場再編計画

- 追手門広場には市の施設として、弘前市観光館、弘前市立図書館など5施設があり、いずれの施設も建築後30年以上が経過し、大規模な改修・更新費用の確保が大きな課題となっている。
県重宝である旧弘前市立図書館などの文化財活用を検討が必要。
- 新たな県立博物館の整備により、観光で弘前市を訪れる方の満足度向上が図られ、**文化・観光の拠点として、にぎわいの創出によるエリアの価値向上**が見込まれるため、県の計画に合わせ再編を行う予定。
なお、検討結果によっては、県の博物館と市の施設の複合施設となる可能性もある。

今後のスケジュール

- 追手門広場再編に向けては、県と一緒に検討を進める必要がある。
- 想定スケジュールとして、早期に「庁内プロジェクトチーム」を立ち上げ、有識者等との検討を経て、追手門広場整備方針を取りまとめる。来年度以降、同整備方針に基づき、具体的な整備スケジュールを含む追手門広場整備計画を取りまとめる予定。



新たな県立博物館の 整備場所候補地について

令和8年7月30日
青森県教育委員会

新たな県立博物館のコンセプト

ふるさとをつなぎ未来をつくるミュージアム

- ◆人、地域、博物館、関係機関及び民間団体などの有機的な連携を図りながら青森県の豊かな自然、歴史、文化を継承することにより、人々の生活に豊かさをもたらす
- ◆現代と未来を生きる世代にふるさと青森への愛着と誇りを育む県立博物館を目指す

新たな県立博物館の役割

- ◆リアルとデジタルを融合した、ダイナミックな展示
- ◆県内施設と連携した展示を行う移動博物館、学校等へ訪問する
出前授業などのアウトリーチな教育普及活動を強化
- ◆先人の創意と工夫を知り、守り、受け継ぐ収集・保存活動
- ◆青森県の過去と現在を多くの人と分かち合う調査・研究活動

▶更に、弘前市施設や弘前公園等との連携により
博物館単独では生まれない新しいサービスの可能性



県立博物館

×



市施設

×



弘前公園等